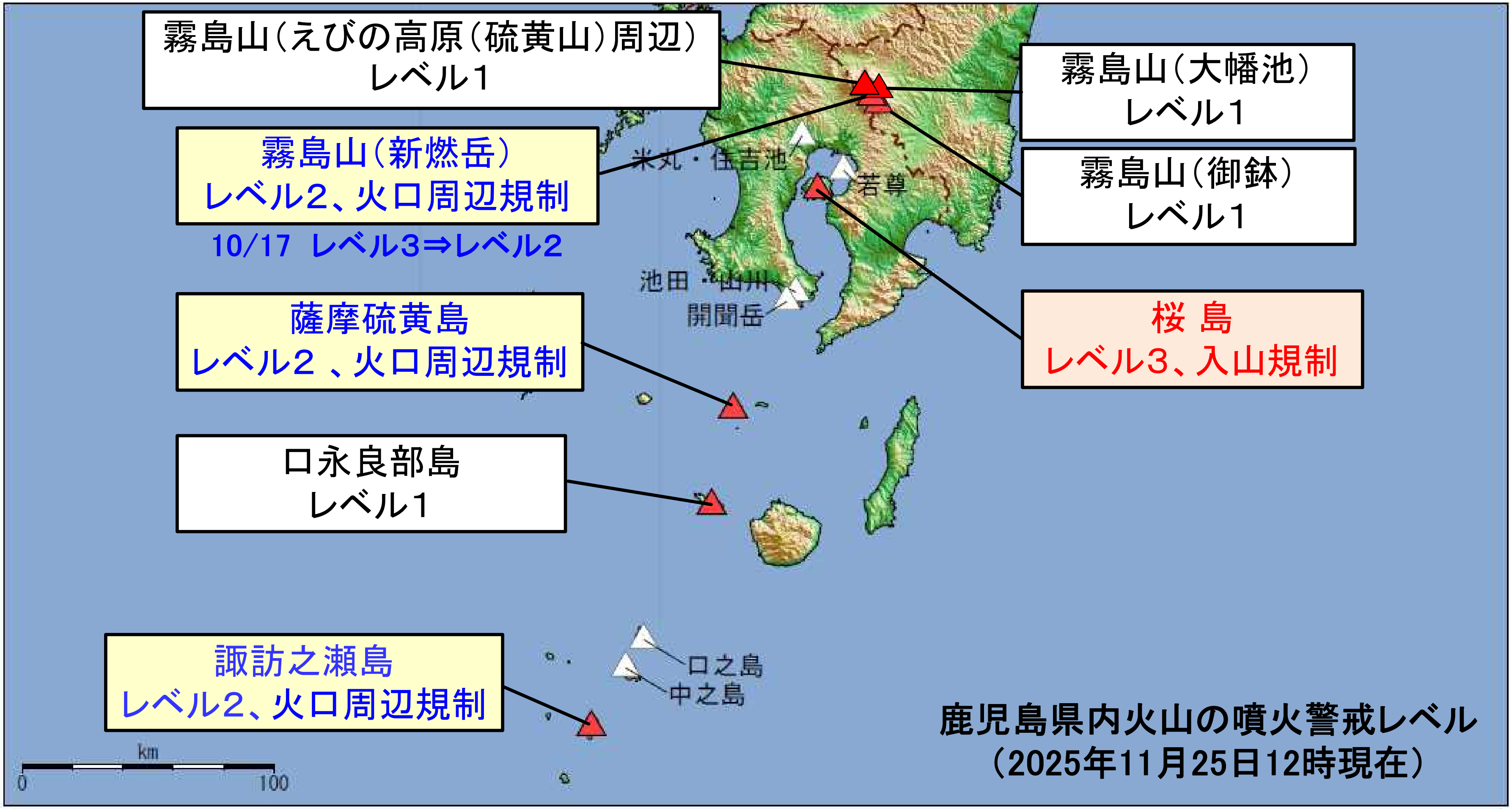
国土交通省
気象庁
Japan Meteorological Agency

2025年11月25日(火)
月例気象説明会

鹿児島県の火山活動概況

2025年10月～2025年11月20日

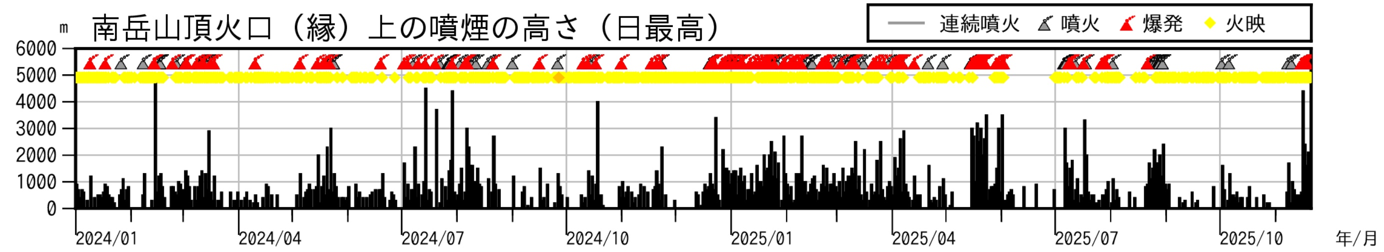


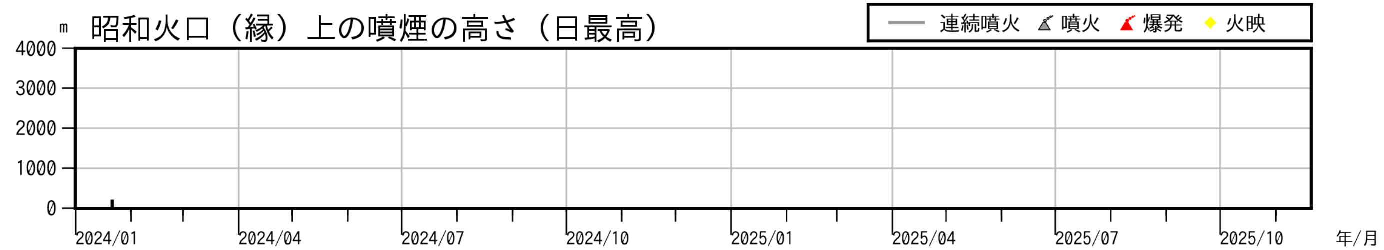
鹿児島地方気象台

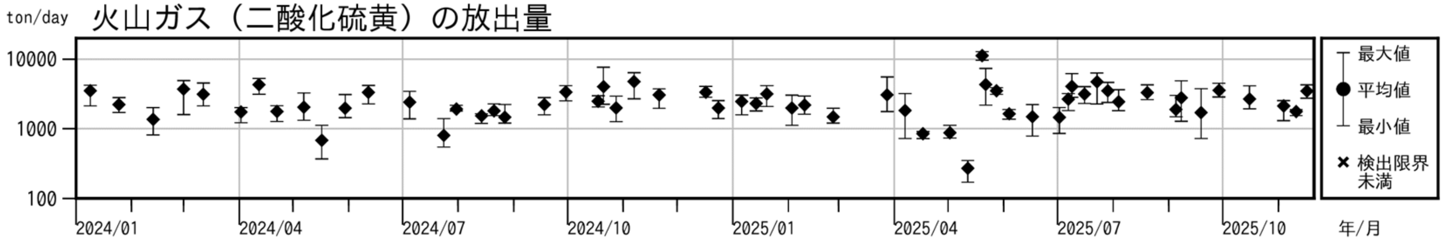
桜島　噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
（2022年7月27日20時00分発表）

	１０月以降の主な状況
活動評価	姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	［南岳山頂火口］ 噴火回数　11月（20日まで）：23回（うち爆発：９回）　10月：噴火２回（うち爆発：０回） 11月16日00時57分の爆発：噴煙の高さは火口上4400m、大きな噴石は５合目まで飛散 ［昭和火口］（ごく小規模含め）噴火は発生せず
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は１日あたり平均1800～3500トンと多い状態





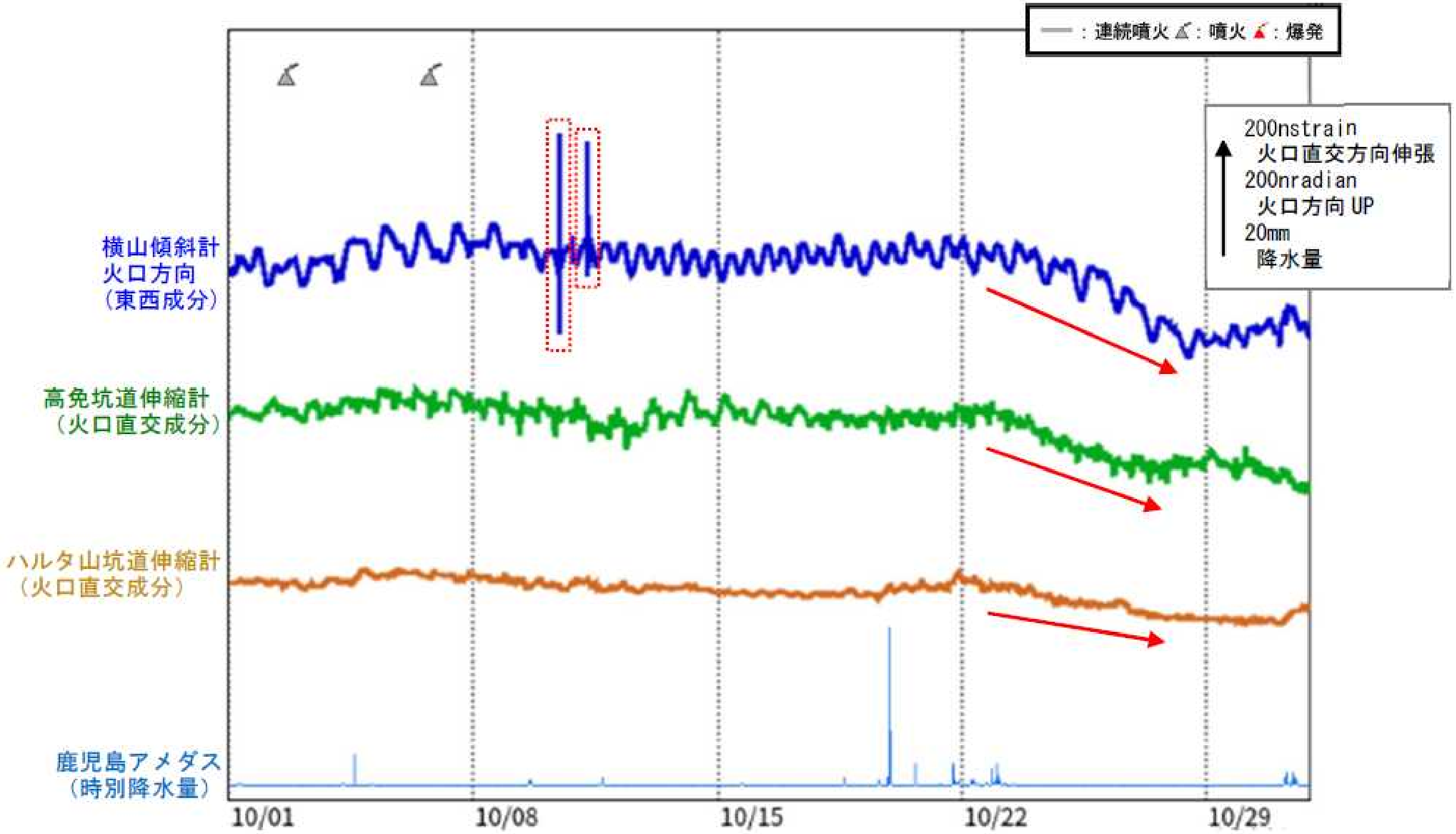


桜島　噴煙・火山ガス活動推移（2024年１月～2025年11月20日）

桜島　噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
（2022年7月27日20時00分発表）

	１０月以降の主な状況
傾斜・伸縮	桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、10月下旬に山体の収縮に伴うとみられるわずかな変化が認められた（図中の赤矢印）。



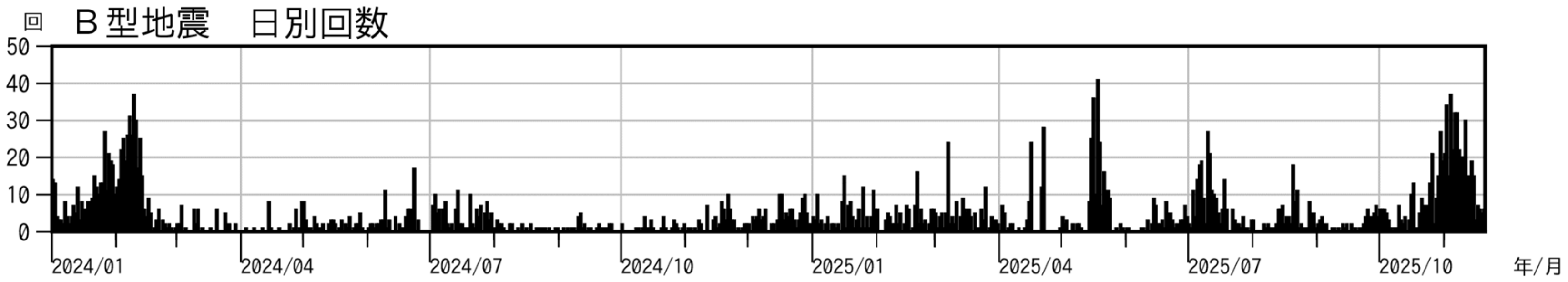
傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況（2025年10月1日～10月31日）

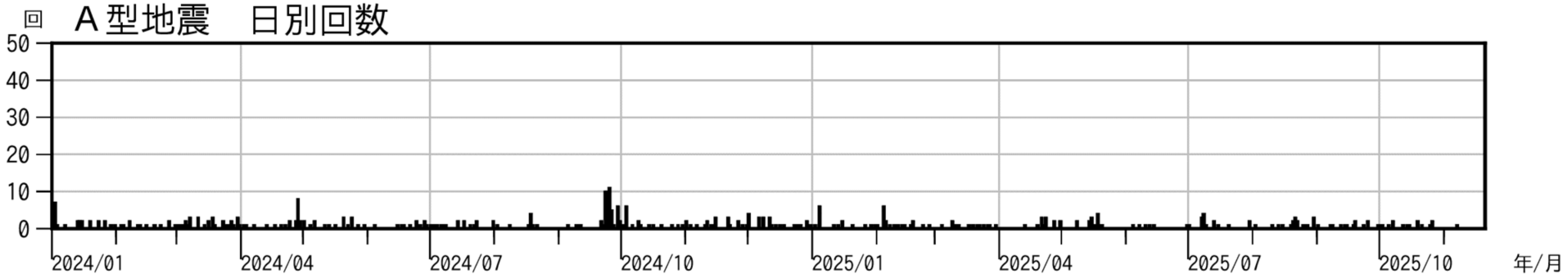
※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。
※図の作成には、京都大学のハルタ山坑道と高免坑道の観測データを使用している。
※赤破線内の変化は遠地地震の影響によるものと考えられる。

桜島　噴火警戒レベル3（入山規制）

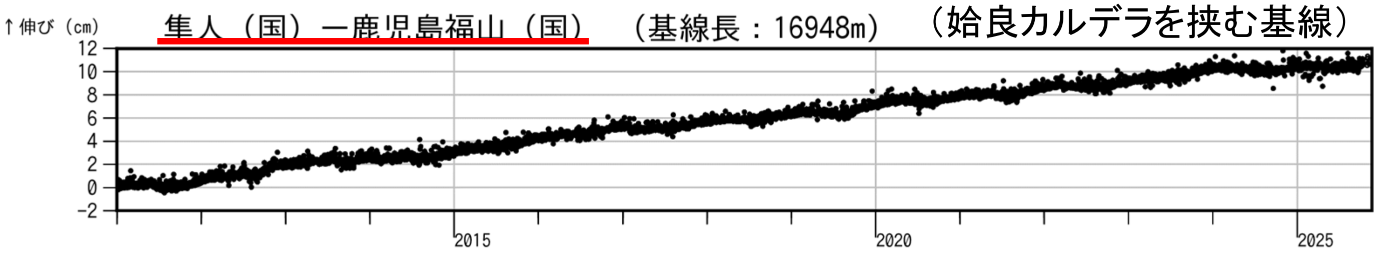
警戒範囲：火口から概ね2km
（2022年7月27日20時00分発表）

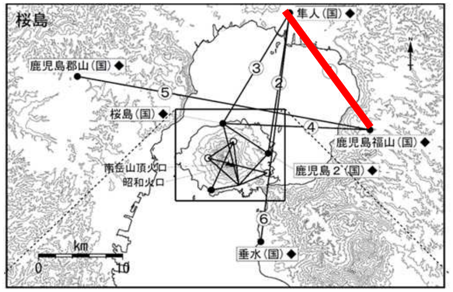
	１０月以降の主な状況
震動現象	火山性地震は少ない状態で経過
ＧＮＳＳ	長期にわたり姶良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる





桜島　地震活動推移（2024年１月～2025年11月20日）



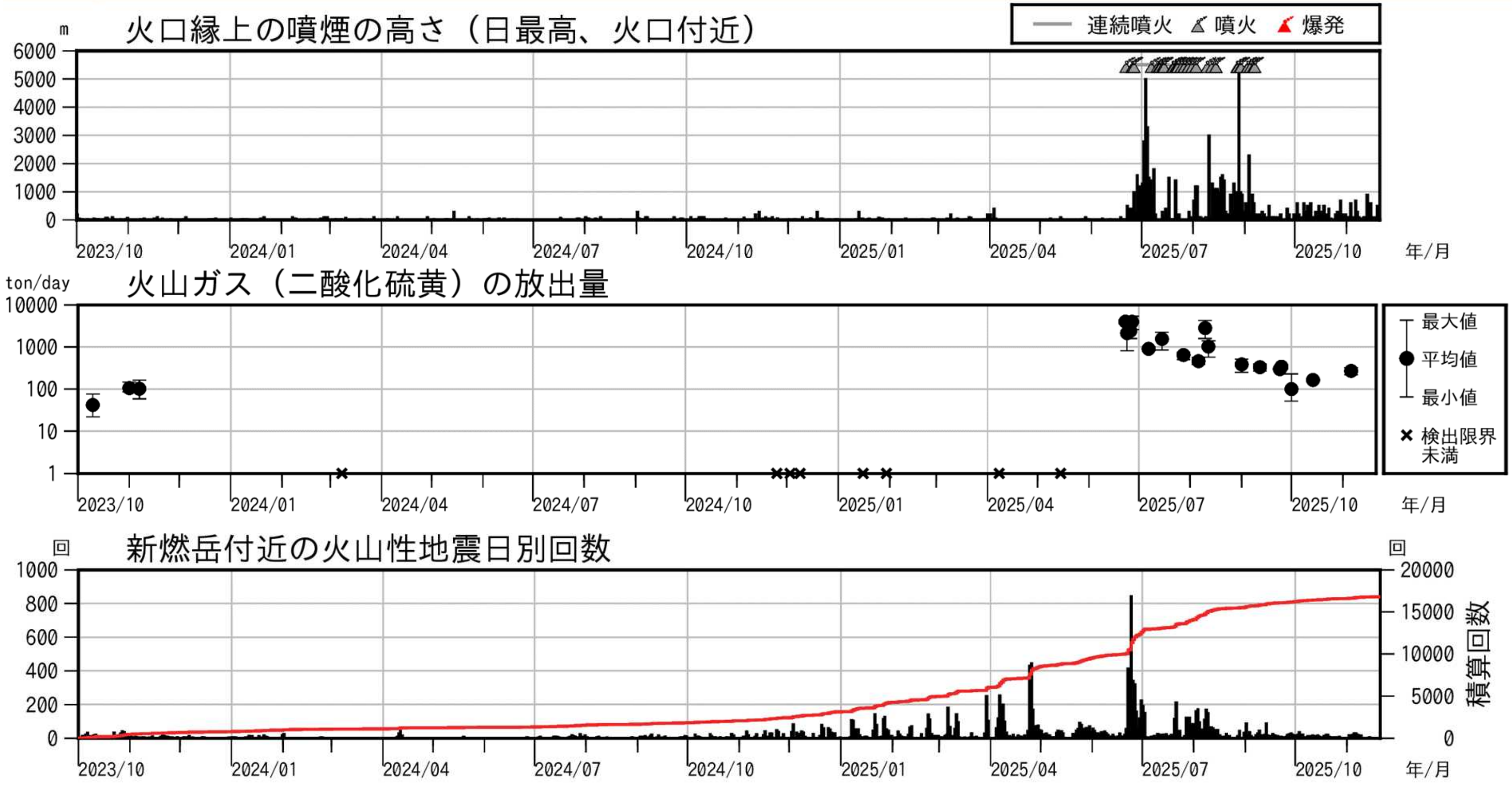


桜島　GNSS基線長変化図（2011年1月～2025年11月20日）

新燃岳　噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
（2025年10月17日11時00分発表）

	１０月以降の主な状況
活動評価	**火口直下を震源とする火山性地震は多い状態、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石などに警戒**
噴火活動	９月８日以降、噴火は観測されていない
火山ガス	火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は１日あたり平均100～300トンとやや少ない状態で経過
震動現象	2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返している。 10月２日には継続時間の短い火山性微動が発生。

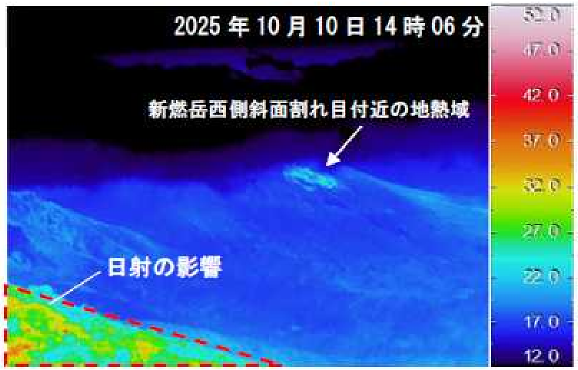


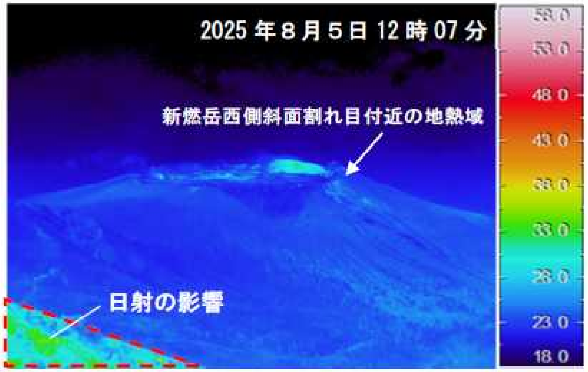
新燃岳　火山活動経過図（2023年10月～2025年11月20日）

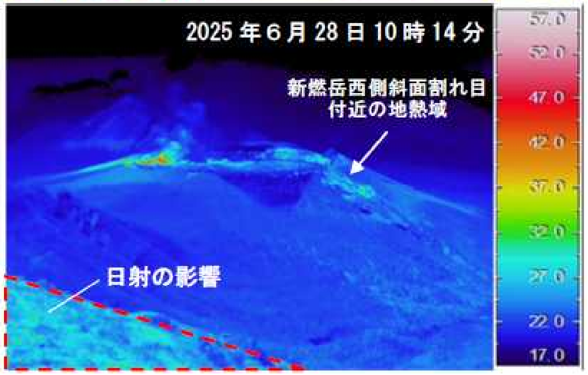
新燃岳　噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒範囲：火口から概ね2km
（2025年10月17日11時00分発表）

	１０月以降の主な状況
現地調査	新燃岳西側斜面の割れ目付近では、前回の観測（８月５日）と比較して地熱域がわずかに拡大していることを確認したが、前々回の観測（６月28日）と同程度であった。







新燃岳火口内及び新燃岳西側斜面割れ目付近の状況
（10月10日　韓国岳山頂付近から観測）

・新燃岳火口内の状況は、雲のため確認できなかった

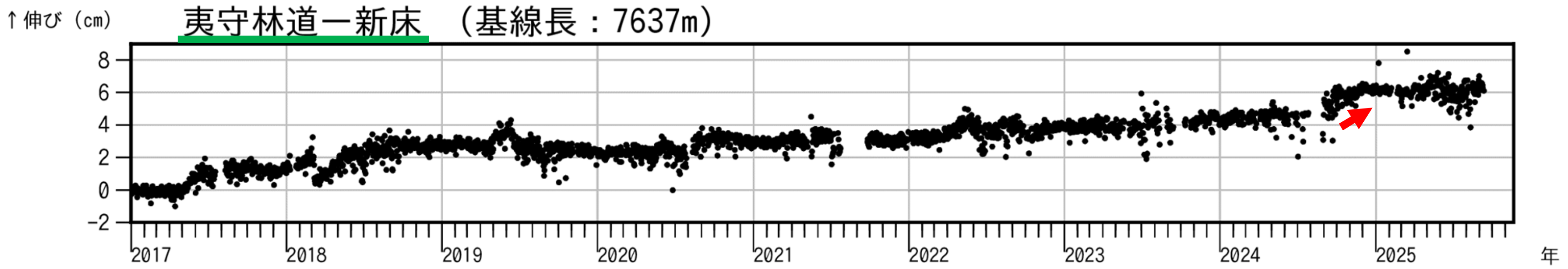
・新燃岳西側斜面の割れ目付近では、白色の噴気がわずかに上がっていた

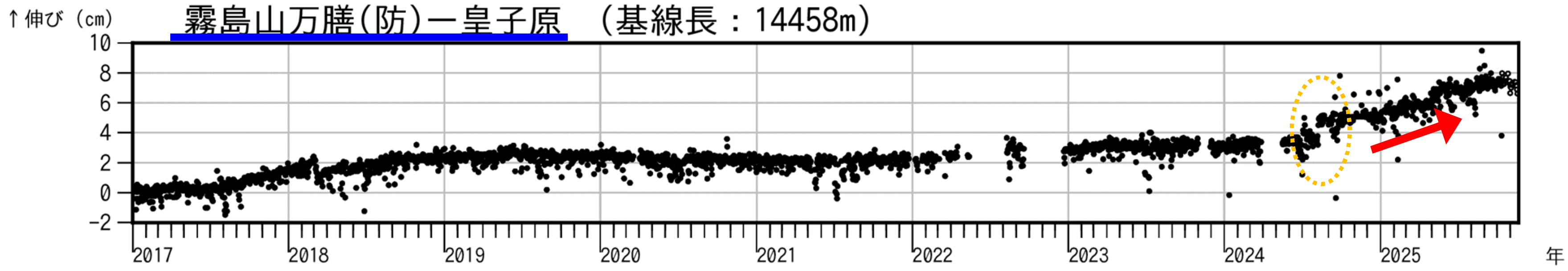
・前回の観測（８月５日）と比較して地熱域がわずかに拡大していることを確認したが、前々回の観測（６月28日）と同程度であった

新燃岳　噴火警戒レベル２（火口周辺規制）

警戒範囲：火口から概ね２km
（2025年10月17日11時00分発表）

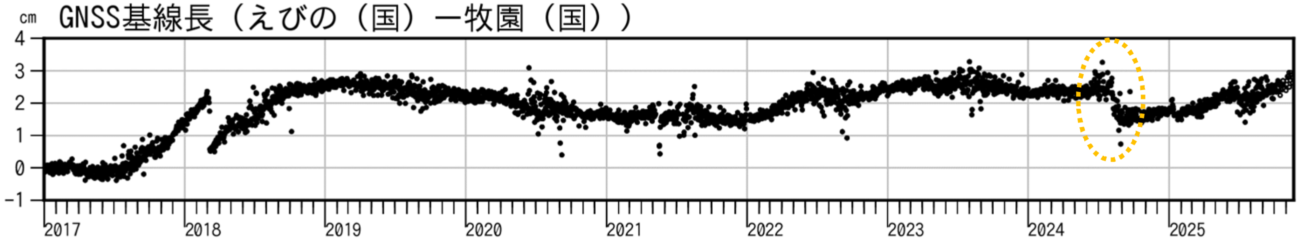
	１０月以降の主な状況
ＧＮＳＳ	霧島山を挟む一部の基線で、2024年11月頃から新燃岳付近の地下、2025年３月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、７月上旬頃からはいずれも停滞。

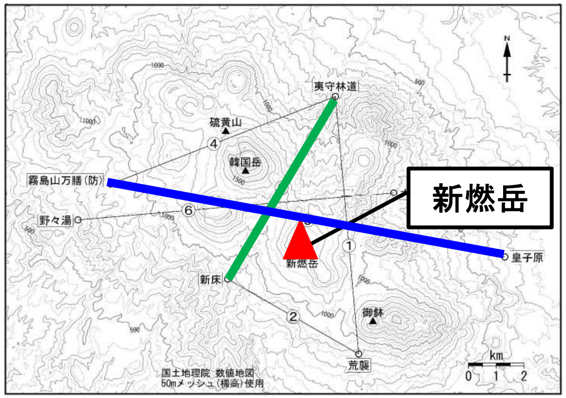




新燃岳付近　GNSS 連続観測による基線長変化（2017年１月～2025年11月20日）

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す





霧島山　GNSS 連続観測による基線長変化（2017年１月～2025年11月20日）

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す